仏教学研究　第68号　抜刷
平成24年３月10日　発行

新刊紹介：Simone-Christiane Raschmann & Jens Wilkens (eds.) *Fragmenta Buddhica Uigurica*. Ausgewählte Schriften von Peter Zieme, Berlin, Klaus Schwarz Verlag, 2009, 646p.

笠　井　幸　代

新刊紹介：Simone-Christiane Raschmann & Jens Wilkens (eds.) *Fragmenta Buddhica Uigurica*. Ausgewählte Schriften von Peter Zieme, Berlin, Klaus Schwarz Verlag, 2009, 646p.

笠井幸代

中央アジア研究，特に古代トルコ民族および古代トルコ語をテーマとする研究者にとってペーター・ツィーメ（Peter Zieme）氏の名は特別な意味を持つ。周知の通り，ドイツの首都ベルリンにはプロイセンが4度にわたり中央アジアへ派遣した考古学調査隊が持ち帰った膨大な史料が保管されている。この探検隊は偶然にも西ウイグル王国の中心地であったトルファンを重点的に発掘し，その結果大量の古代トルコ語文書がベルリンに将来され，その解読に基づいた古代トルコ語文献学，及び言語学が目覚ましい発展をとげることとなった。こうしたドイツ文献学・言語学の伝統の中にあってツィーメ氏こそは，文書所蔵機関であるベルリン＝ブランデンブルク州立アカデミートルファン研究所（Akademienvorhaben Turfanforschung, Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften）の研究員，更には所長として長年の間，ドイツに所蔵される古代トルコ語文献の刊行・研究に大きく貢献されてきたからである。そして定年退職された現在でもこの分野の第一人者として，以前にも増して精力的に研究を続けられている。

本書はそんなツィーメ氏にとって初の著作集であり，氏の65歳の記念事業として出版された。もちろん多作で知られる氏のことであるから，全ての論考を一冊にまとめるなど到底無理な話である。そこで本書ではベルリンコレクションの大半を占める古トルコ仏教文献関連のものに限定し，さらにその中から以下に挙げられた5つのテーマに沿った論文を選んでいる：

I. Sutras und Aussprüche（経典と箴言）：15論文
II. Sünden und Höllen（罪と地獄）：3論文
III. Erzählungen und Hagiographien（説話と高僧伝）：5論文
IV. Esoterisches und Tantorisches（密教とタントラ仏教）：6論文
V. Kolophone und Daten（奥書とデータ）：7論文

個々の収録論文には編者によって略号が与えられており，本新刊紹介での引用もそれによる。これらの論文は全て原載論文をスキャンして再録しているため，初出時のページ数がそのまま利用でき，引用には非常に便利である。また本来の書誌情報も584-586頁に正確に記載されている。

ところでツィーメ氏の著作の大半は未発表の古代トルコ語文書を初めて世に紹介したものであり，写真図版の存在は不可欠であった。しかし発表当時，それらが読者の使用に堪える質で提供されることは，諸般の事情により困難な場合が多かった。今回の再録に当たって写真図版は，編者によって可能な限り精度の高いものと差し替えられている。もちろん現在ではベルリン所蔵古代トルコ語文書の映像は，全てインターネット上で公開されており[1]，何時でも閲覧可能である。しかし本書を利用する際に良質の図版を同時に手元で見ることが出来るのは，読者には非常に有難い配慮である。

また本書には2本のロシア語論文（ZiemeSuv, ZiemeKsilogr）が収録されている。前者は『金光明最勝王經』に関するものであり，後者は仏典に付された奥書を扱っている。いずれも該当文献を概観した短いものであるが，入手困難な論文であり，本書によって初めてその存在を知ることになる読者も少なくないであろう。さらにこれら二論文は，編者のジモーネ＝クリスティアーネ・ラシュマン（Simone-Christiane Raschmann）氏によってドイツ語訳が付されているため，より多くの研究者に利用される道が開かれたことも喜ばしい。

さて本書の為に選ばれた論文は，いずれも古代トルコ語仏教文献を扱った有名なものばかりである。そのため本評で詳細に内容を紹介するのは蛇足であろうが，古代トルコ語及び古代トルコ仏教史を専門としない読者の利便を考えて，敢えて以下に上記のカテゴリー別に個々の論文内容を簡潔に紹介したい：

カテゴリーI：収録論文数が最も多く，全て仏教経典の古代トルコ語訳を扱っている。Devatā は『天請問經』に属する文書を解読・発表したもので，Candra では『雜阿含經』中の頌が異なる古代トルコ語版においてどのように翻訳されているのか，比較研究されている。ZiemeSchlangen は Upasenasūtra に属するウイグル文字で書かれた三種の文書（サンスクリット語，サンスクリット・ウイグル二言語，ウイグル語）を扱っており，SPZieme，ZiemeŚubha と ZiemeGadgada は法華経に関する研究である。ZiemeMahāpar では涅槃経に属する文書二点が，ZiemeKṣit では『地藏菩薩本願經』の一部と同定された文書一点がそれぞれ紹介されている。Bhaiṣ，及び ZiemeBhaiṣ は『藥師琉璃光如來本願功德經』に関する研究であり，ZiemeEnl と Erleuch は特に禅宗で重視された『大方廣圓覺修多羅了義經』を扱っている。UigSukh と ZiemeGuan は，それぞれ浄土三部経の一つである『佛說無量壽經』と『佛說觀無量壽佛經』に関するものである。

カテゴリーII：論文数こそ少ないが，古代トルコ語文献中で重要な位置を占める懺悔文に関する2論文（UigSün, ZiemeAra）と中央アジアでの広範な流行が認められる偽経，いわゆる十王経を扱った論文（ZiemeTenKings）を含む。特に古代トルコ語訳十王経に関しては現在，ツィーメ氏と本書の編者の一人，ラシュマン氏によって残存する全断片の翻訳・転写を含む著書の執筆が計画されており，さらなる研究の発展が期待される。

カテゴリーIII：『十業道物語（*Daśakarmapathāvadānamālā*）』(ZiemeNachl)，『善悪二王子經』(ZiemeKP)，『ラーマ王物語（*Rāmāyaṇa*）』(Rāma)，*Saṃghabhedavastu* や『佛說衆許摩訶帝經』で語られる舎利弗と異教徒とのやりとりを題材とした説話（ZiemeŚārip）の古代トルコ語訳を扱った論文，そして古代トルコ語版『大唐大慈恩寺三藏法師伝』に見える玄奘の彌勒信仰に関する論文（ZiemeMaitreya）を収録。なおこのうち Rāma で発表された文書については後に，『ラーマ王物語』を扱った独立した文献ではなく『十業道物語』の一部であることがイェンス・ヴィルケンス（Jens Wilkens）氏の研究[2]によって判明している。

カテゴリーIV：六本の論文はいずれも密教関連の経典を扱ったもの。ZiemeProbleme は金剛経に関係のある様々な古代トルコ語文献における問題点を論じている。金剛経関連の古代トルコ語テキストについては，アブドラシティ・ヤコブ（Abdurishid Yakup）氏により最新の校訂版[3]が発表されており，本論文はもちろんのこと，そちらも併せて参照する必要がある。ZiemeEssenz は法華経から抜粋された頌を含む古代トルコ語仏典の研究であり，ZiemeSam と AvStava はいずれもモンゴル期に頻出する頭韻四行詩で書かれた古代トルコ語仏典を扱っている。前者は『大方廣佛華嚴經』の普賢菩薩行願品の印刷仏典であり，後者は，明確に内容を特定できないものの，同じくツィーメ氏によって『千手千眼観音の讃歌』と名付けられて刊行された別の古代トルコ語文献[4]との関連性が指摘されている。ZiemeTārā ではチベット仏教で重視されているターラー菩薩に関する仏教文献 Tārā-Ekavīatistotra の研究である。

カテゴリーV：古代トルコ語仏教経典に付された奥書を扱った諸論考を含む。このテーマは氏が長年注目して研究を続けてきたものであり，その成果の一部は氏の著書 *Religion und Gesellschaft im Uigurischen Königreich von Qočo, Opladen*, 1992[5]にま

とめられている。これも含めて奥書に関する数ある著作のなかでも，特に重要な論文ばかりが本著作集用に選ばれている。例えばZiemeDonorで発表されたのは印刷仏典に付された奥書だが，これは仏典印刷の場所（中都）と年代の決定（1308年）を可能とした珍しい例である。またZiemeDatは奥書から年代決定できる印刷仏典をリストアップしたもので，確実に年代の分かる古代トルコ語印刷仏典を概観するのに便利である。TT VI ColophとZiemeMaitrKultでは最初期に古代トルコ語に翻訳されたと考えられている『佛説天地八陽神咒經』に付された奥書と，古代トルコ仏教において重要な位置を占める彌勒信仰の形跡が見られる奥書とが発表されている。ZiemeElogeはモンゴル期に書かれた頌讃四行詩に関する研究で，ZiemeTitresではウイグル仏教徒の称号と名前について論じられている。(6)

ところで，本書が著作集として特に優れているのは，収録されている論考の為した学術的貢献の大きさもちろんのこと，再録に当たって著者であるツィーメ氏自身の手によって訂正・補筆が行われていることである。この部分は個々の論文の末尾に「補足と訂正」(Addenda et corrigenda) として原本に変更を加えないよう，配慮されて別に付加されている。特筆すべきは，最近の研究動向が考慮されているに留まらず，著者自身によって発表後も続けられた研究の成果が惜しげも無く発表されていることである。例えば，ZiemeMahāparとBhaiṣに付されたものには，論文発表後の研究動向が，新発見の文書に関する情報を含めて紹介されている。ZiemeKṣit, UigSukh, ZiemeAra, ZiemeTārāでは著者ツィーメ氏自身によって新たに該当テキストに同定された文書がそれぞれ，その転写及びドイツ語訳とともに追記されている。(7) またZiemeAraで発表された文書は発表当時，懺悔文 (Sündenbekenntnis) とだけ命名されていたが，その後の著者の研究により『慈悲水懺法』の翻訳であったことが明らかにされている。

以上，本文の付録として，587頁からは編者によって付された各種の索引が並ぶ。用語索引はもちろんのこと，地名や論文中に引用されている経典やその他の文献名索引，また古代トルコ語をはじめとした各種言語の術語索引まで作成されている。これまで広範なテーマを扱ってきたツィーメ氏の膨大な著作の内容を全て詳細に把握するのは非常に困難であり，今回この著作集に収録された論文に関してだけでも詳細な索引が作成されたことで，ツィーメ氏のすばらしい研究成果がより多くの研究者の利用に供されたと確信する。また全ての文献を網羅した古代トルコ語辞書がまだ存在しない現在の状況にあって，古代トルコ語の術語索引は特に古代トルコ語文献学者にとっては非常に便利なものである。

各種索引の最後には収録論文中で言及された全ての文書のリストが，所蔵機関ごとに挙げられている。これまでツィーメ氏はベルリンのみに留まらず，日本，ロシアを含む世界中に散らばる中央アジア関係のコレクション中に所蔵される古代トルコ語文書をも視野に入れて研究されてきたが，一体どれだけの文書が氏によって発表されてきたのか，その全貌を摑むことは非常に困難であった。他の索引同様，収録論文に関してのみではあるが，今回初めて氏の論文中に引用されている文書の長大なリストが作成されたことで，改めて氏の熱意とその成果の素晴らしさを目の当たりにした思いである。なおここでは氏によってフルテキストが刊行された文書ではなく，単に引用されたのみの文書番号はイタリック体で示されており，一目で判別できるよう配慮されている。

そして一番最後にはラシュマン氏によって作られたツィーメ氏の1966年から2008年までの完全な文献目録が付されている。氏の文献目録は還暦記念論集に2002年までのものが一度掲載されている。(8) しかし多作である氏は，2—3年も経てば数十本の論文を執筆されてしまう。そのため常に更新が必要であり，今回の著作集に再度完全な文献目録が記載されたことは有難い。

本書の出版は両編者の多大な尽力により可能となったものである。それには索引の作成や収録論文の選定と言った学術的，専門的なことだけでなく，出版社との折衝，財政面での問題の解決なども含まれ，後者の方がより大変であったと聞く。今や大学・研究機関にあってさえ現代社会の問題解決に直結するような分野のみが重宝される時代であり，世界的に有名だとはいえ，古代語の専門家であるツィーメ氏の重要性を分野外の関係者に認識させるのが，いかに至難の業であったことは想像に難くない。こうしたことも含めて諸般の事情から氏の65歳の誕生日には少々遅れてしまったものの，本書が日の目を見たのはひとえに両編者が飽くなき熱意を持って出版実現に奮闘されたためであろう。本書が学界にもたらす多大な貢献を思うとき，ラシュマン，ヴィルケンス両氏の熱意にただ感謝の意を表するのみである。

BT XIII　Peter Zieme: *Buddhistische Stabreimdichtungen der Uiguren*, Berliner Turfantexte XIII, Berlin, 1985.

BT XXVI　Yukiyo Kasai: *Die uigurischen buddhistischen Kolophone*, Berliner Turfantexte XXVI, Turnhout, 2008.

BT XXVIII　Abdurishid Yakup: *Prajñāpāramitā Literatur in Old Uyghur*, Berliner Turfantexte XXVIII, Turnhout, 2011.

小田壽典（訳）P．ツィーメ著『高昌ウイグル王国の宗教と社会—中央アジア出土，古代トルコ語仏教文献の式後と施主—』，『豊橋短期大学研究紀要』 10 (1993), 213-224；11 (1994), 135-146；12 (1995), 285-294；13 (1996), 99-112；14 (1997), 123-138.

Zieme, Peter 1978 Materialien zum uigurischen Onomastion. (1)., in: *Türk Dili Araştırmaları Yılığı —Belleten* 1977, 71-84.

1981 Materialien zum uigurischen Onomastion. II., in: *Türk Dili AraştırmalarYılığı —Belleten* 1978-79, 81-94.

1987 Materialien zum uigurischen Onomastion. II., in: *Türk Dili Araştırmaları Yılığı —Belleten* 1984, 267-283.

1994 Samboqtu et alii. Einige alttürkische Personennamen im Wandel der Zeiten, in: *Journal of Turkology* 2, 119-133.

(1) Digital Turfan-Archaiv (http://www.bbaw.de/forschung/turfanforschung/dta/index.html), 及び IDP (International Dunhuang Project, http://idp.bl.uk/)を参照。

(2) BT XXVI, p. 162, 脚注518を参照。『十業道物語』の包括的研究はヴィルケンス氏によって現在精力的に進められている。その成果としてAlttürkischen Handschriften シリーズよりカタログが，Berliner Turfantexte (BT) シリーズよりテキスト，独訳と訳注を含めた校訂版が発表される予定である。

(3) 氏の校訂版はBerliner Turfantexte シリーズより出版されている [BT XXVIII]。

(4) BT XIII, No. 21を参照。

(5) 小田壽典氏による日本語訳が存在する [小田1993-1998]。

(6) このテーマに関する著者の論文も多い。例えば，Zieme 1978, 1981, 1987, 1994等を参照。

(7) 同定された文書はそれぞれ一点 (ZiemeKşit)，二点 (UigSukh)，二点 (ZiemeAra)，三点 (ZiemeTārā) を数える。

(8) Ölmez, Mehmet & Raschmann, Simone-Christiane (eds.) *Splitter aus der Gegend von Turfan*. Festschrift für Peter Zieme anlässlich seines 60. Geburtstags, Istanbul/Berlin, 2002, pp. 27-50.